

# 安藤利博

## 議会報告

第5号  
令和4年7月

発行人: 安藤利博

〒709-0721 赤磐市桜が丘東 4-4-695

TEL・FAX 086-995-3714

携帯番号 090-7137-6605

E-mail qjitek5963@gmail.com



(議会中継)



(LINE)

### 総務常任委員会・予算常任委員会・本会議より

#### 防災行政無線 戸別受信機

- ・6月補正予算で、防災行政無線の戸別受信機 **300台** が配布されることになりました。  
(自己負担額は3,000円です)
- ・対象者は**山陽、赤坂、桜が丘東地区**の避難行動要支援者で、執行部の説明ではその **1,505世帯** のうちの希望者とのことです。
- ・避難行動要支援者とは、災害発生時に自分で避難することが困難なため、支援を要する方です。具体的には要介護3以上の方、障害者、75歳以上の高齢者世帯等で、要支援者全体では3,211世帯ということです。
- ・今回の対象者はそのうちの約半数で、これは避難支援等関係者に情報提供することに同意が得られた方のみです(町内会長に情報提供されているのはこの名簿です)。
- ・財源の制約があるとはいえ、趣旨からいえば、対象者は1,505世帯でなく、**要支援者全体の3,211世帯** にすべきです。
- ・更に、以前から指摘しているように、防災無線が**聞きづらい世帯** にも拡げるべきです。  
(この点については今後要望していきます)。



(戸別受信機)

#### 補正予算案に反対

- ・新型コロナ地方創生臨時交付金を財源に、小中学校の2,3学期の給食費を**全額免除**する予算1億5,300万円が中心です。
  - ・物価高騰対策なら他市と同様、給食費値上げ相当分の補助で十分。小中学生3,566人(人口比8%)だけに1億5千万円は異例です(**一人約4万円。高校生、未就学児童は対象外**)。
  - ・岡山市、倉敷市、瀬戸内市などは、1食当たり30円程度の助成です。他市並みの助成なら、1,600万円で良く、1億3,700万円が他の事業に使えます。
  - ・**貴重な財源であり、広く市民のための事業に充てるべきだ**として、一例を挙げました。  
**戸別受信機をもう300台増やす・・・1,000万円**  
**18歳以下に1万円支給・・・7,400万円**  
**高齢者医療費補助一人7千円・・・5,200万円**
  - ・これなら75歳以上の後期高齢者約7,300人、18歳以下の子供約7,400人、人口比で34%の市民に施策が行き渡ります。
  - ・高齢者医療費に代えて、学校、公民館、公園等の**トイレの洋式化等**も考えられます。
- でも、予算案は反対少数で可決されました。  
**予算調整権は市長にあるとはいえ、問題ある議案には反対もしないと、議会のチェック機能が果たせません。是々非々で対応します。**

# 一般質問より（発言趣旨を補足して記載しています）

## 地域交通計画策定にあたって

現在の地域公共交通網形成計画が令和5年度で終了します。今年度は令和6年度から5年間の後継計画を作るための調査が始まり、来年度は計画が議論されます。その意味でこれからの2年間は、今後7年間の公共交通の在り方を決める大切な期間です。

そこで、現在の公共交通の実体、問題点について質しました。

### 問題点1 効果の検証が出来ていない

現在、公共交通に頼らざるを得ない人は、マイカーを手放した人、持たない人（マイカーを持っている人は市民バスには乗らない）。そこでマイカーを持たない世帯数、人数は何人か。効果を検証するため、実際にバスを利用できている人は何人かを質しました。

バスを利用している人数 = ?

マイカーを持たない人

案の定、執行部はどちらも掴んでいません。計画策定の大前提となる数字さえ掴んでいないのでは話になりません。

### 問題点2 公平性にも問題あり

#### その1、一週間の運行便数の違い

可真桜が丘線 = 6便/日 × 6日/週 = 36便/週

笹岡線他 = 3便/日 × 2日/週 = 6便/週

1週間の運行便数に6倍の差。この理由は？

#### その2、デマンド型バスと、定時定路線バス

吉井地区は自宅近くから中心部まで行けるデマンド型バス。過疎地域が理由なら、赤坂地区も過疎地域。旧熊山地区も実質過疎地域と変わらない。何で吉井地区だけ？？？

#### その3、利用できる人にしか市の補助はない

計画では週2回買物に行けるように運行するとしている。それなら同じ人が年に208回乗っている計算になる（2回/週 × 往復 × 52週）。

延べ利用者数：12,889人/208回 = 62人

実利用者は62人、100人にも満たない。このための事業費は約3千2百万円。一人当たり年間50万円強を市が負担している計算になる（実利用者が分からないため推計値です）。

（数字は令和2年度の実績です。以下同じ）

### 問題点3 収支率は4.9%、費用対効果は度外視

利用収入：160万円  
事業費：3200万円 = 4.9%

デマンド型バスに到っては1.9%！

いかに公共交通といえども極端ではないのか

（収支率が低いのは、利用料金が安いからではなく、事業費が大き過ぎるのが原因）

### 問題点4 元凶は、平均輸送人員2人未満の便

この収支率の低さの元凶は、1便平均輸送人員が2人未満の便を運行していることです。

現在の計画では、縮小を検討する目安を2人未満としています。その便が36便中24便です。

更に、1人未満の便、平均で1人も乗っていない、まるで空気を運んでいるだけのような便が14便も有ります。税金を捨てているようなものです。どのような理由でここまでバスに拘るのか理解できません。

1人未満の14便を止めるだけでも、事業費は1,200万円削減できます（単純計算です）。

事業費：3251万円 × 24/36 = 2167万円

事業費：3251万円 × 14/36 = 1264万円

### 解決策 アクティブシニアによる“赤磐モデル”

定時定路線型の公共交通の“網”では、行き先も、行く時間も希望に合わず解決できません。

それには、いずれ自分も助けられる立場になるボランティアにより、“面”でカバーする支援組織を立ち上げるしかない。利用したい人、協力できる人を募集するだけで簡単にできます。

赤磐市にはボランティアの活動実績がある。

赤磐市包括支援センター 通所付添サポーター

桜が丘西1丁目

西一助けあい隊

桜が丘東4丁目

東4生活支援ネット

安心して免許証返納が出来る“赤磐モデル”を

## 効果的な交通安全対策について

この問題は、3月議会でも取り上げましたが、重要な問題であるにも拘わらず、議論が噛み合わなかったのが、再度具体的な問題に絞って取り上げました。

しかし、残念ながら今回も「町内会からの要望があれば」と繰り返すのみで、市民の安全、交通マナー向上に自らの責務として積極的に取り組む姿勢が見られませんでした。

### 働き方改革とは無縁な、登校時間繰り下げ

新年度より小学校の登校時間が15分繰り下げられた。これにより旗当番の保護者は仕事に間に合わず、大変困っている。1月に保護者宛に通知を出したというが、一方的な通知。文科省も「地域から心配や反対の声がある」としているのに強行。先生の都合しか考えない。登校時間を繰り下げると、せめて保護者の旗当番に代る見守り態勢を作ってからにすべきです。（「地域の方にはお世話になっています」は口先だけか、との声も聞きました）

### 目的を考えない効果の無いステッカー作成

横断歩道で一時停止を促すステッカーを作りはしたが、直径8cm程の小さな代物で全く目立たない。しかも作ったのは僅か200枚。

貼った車を見たことがない。

後続車に見せて、一時停止する車を増やすのが目的。

右の民間宅配業者ステッカーを見習うべし。



### サインサンクス運動を見習え

横断歩道での一時停止がワーストから4位まで急改善した宮城県が取組に倣い、サインサンクス運動の実践を提案。運転手に手を挙げて渡るサインを出し、止まるのを確認してから渡り、お礼をする。たったこれだけ。

旗当番には、迫って来る車に背を向けて見守りになっていない人、子供を止めて車を先に行かせる交通違反を誘発している人がある。学校から保護者に依頼しているのであれば、学校の責任として、最低限の交通ルールに沿った、安全な見守り方法を指示すべきです。

### 速度抑制に効果的なハンプを何故設置しない

標識や、路面標示ではスピード抑制は出来ません。一番効果的なのは物理的なハンプです。執行部は音がする、生活道路には馴染まない」と答弁するが、国交省の走行試験では騒音、振動は変わらないとされ、生活道路への導入例も多く示されています。いつもながらのやらない口実探しです。

国交省の標準仕様でなく簡易なハンプ

でも効果は期待できる。



（竜天オートキャンプ場のハンプ）

### 桜が丘の隠れ交差点に3Dイメージハンプを

桜が丘には住宅の間から市道に出られる歩道が多くあります。運転席からは歩道があるとは気付きにくく、まるで危険な隠れ交差点です。手前に3Dイメージハンプを表示すれば運転手が気付き易く、事故を防げます。



（中央の幅1m程の歩道が手前の市道に通じている）

### 桜が丘の歩道段差の改修を

桜が丘の歩道は、車道と段差が有り、各戸の車庫へスロープになっており、歩道が波打っている。足の悪い高齢者やシニアカー、買物カートは、やむなく車道を通っている。危険です。

桜が丘の80歳以上の

高齢者は今後も激増する。



（現在、赤磐市発足時より4倍、千人を越えている）

## 「子どもたちの未来を守るための請願」採択

桜が丘の市民から、要旨次の2点からなる請願が提出されました。

1. 5歳から11歳の子どもへのワクチン接種券一律送付を中止して、保護者から市への申請方式に変更する
2. 保育園、幼稚園、小中学校の児童、生徒、教職員のマスク着用を推奨せず、マスクの自由化、マスク着用の有無での差別意識を持たせない保育、教育の実践

これに対して、私は次の理由で賛成討論をした上で、請願に賛成しました。

1. 厚労省、文科省は「夏場は熱中症防止の観点からマスクが必要でない場面では、マスクを外すことを推奨する」としている
2. 昨年9月は2,200人、今年2月には1,500人いた重症者は現在46人。感染しても殆ど無症状か、軽症。変異すれば別だが、感染者数だけの過剰反応は考えもの
3. 保護者はワクチンの有効性と、後遺症の危険性をしっかり考えられている。自己責任で接種することで十分である。摂取率は低く接種券を全員に送っても無駄になる

採決の結果、賛否同数と成り、議長の裁決権により議長判断で請願は採択されました。

8月下旬に配布される市議会だよりで、各議員の賛否を見て下さい

## 成年後見制度勉強会

赤磐市は、市役所に成年後見サポートセンターを開設しました。成年後見制度は高齢者にとって大切な制度ですが、まだあまり知られているとはいえません。

私が福祉推進員を務めている、桜が丘東4丁目のふれあいサロンで、成年後見制度の勉強会をしました。

講師は、赤磐市地域包括支援センターから紹介をして頂いた、岡山県司法書士会の成年後見センター・リーガルサポーターから派遣して頂きました。

普段はサロンに参加されていない方にも声かけをした結果、28人もの参加者がありました。

多くの事例も紹介して頂き、特に認知機能が衰える前に任意後見人を早めに選定しておくのが望ましいと学びました。



## 安藤利博 議会報告会 開催

新型コロナの影響で、延期していた安藤の議会報告会を4月23日に中央公民館で開催しました。

初めてのことでしたが、20人近くの方に参加していただきました。

前半は私からの報告、後半は皆さんからのご質問や、貴重なご意見をお伺いしました。

日頃から市政に強い関心を持たれている方ばかりで、2時間があっという間でした。

